

仲間とともに

2020. 8.4

二葉小学校

作成 人権教育、同和教育部

～ 人権教育、同和教育 ～

人（自分も周りも）を大切に生きてするための教育である「人権教育、同和教育」を中核として二葉小学校でも教育活動を進めています。

差別で苦しむのは・・・

被差別者（される側）が苦しむことは言うまでもありません。

しかし、差別者（する側）はどうでしょうか。人を差別して生きる人間が、幸せな生き方ができるでしょうか。差別は人と人の絆（きずな）や温かさを断ち切る行為です。差別は「する側もされる側も周囲の人たちも全て苦しめる」ことなのです。

また、傍観者（見ている側）はどうでしょうか。目の前で苦しんでいる人を見て、「私は何も言っていない。何もしていない。見てただけだ。だから関係ない。悪くない。」これが幸せな生き方でしょうか。

差別で苦しむ（不幸になる）のは被差別者、差別者、傍観者の全てです。だからこそ、人権教育、同和教育の授業「人権学習」を通して、被差別者の思いを考えることを通して、自分も周りも大切にしていかなければならないのです。



新発田市「人権問題に関する市民意識調査」

新発田市で2017年に実施した「人権問題に関する市民意識調査」では、部落差別問題について、学校での同和教育の成果がみられる一方で、いわゆる「寝た子をおこすな」の意識や身元調査を容認する10代が多いことなど、人権教育、同和教育の成果と課題が明らかになりました。

【日本の社会に「部落問題」「部落差別」「同和問題」などといわれる問題があることを知っていますか。】という設問に対して、

「知っている・・・50%」

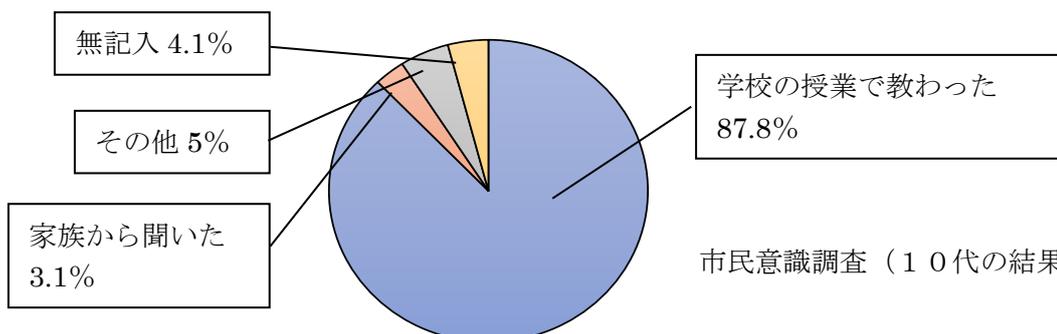
「聞いたことはあるが、あまり知らない・・・37%」

「知らない・・・11%」

「無記入・・・2%」という結果でした。

「知っている」と答えた10代（15歳以上）の割合は75.7%と、他の年代よりも高い割合となっています。また、10代の「学校の授業で教わった」割合が87.8%となっています。近年になり、やっと学校教育において人権教育、同和教育が行われるようになってきたことがわかります。

部落差別を初めて知ったきっかけ



しかし、学校の授業で教わった87.8%のうち、「寝た子をおこすな」の意識を容認している割合が25.6%。身元調査を容認している割合が22.1%と高い数値もでています。学校での「人権教育、同和教育」を充実させ、推進していくことの課題が見えてきます。

* 「寝た子をおこすな」の意識・・・差別、差別というからいつまでも差別が残る。

そっとしておけば部落差別は自然になくなるという考え方

* 「身元調査」・・・本籍、出生、家庭環境、国籍、資産などを本人の了承を得ないで調べること

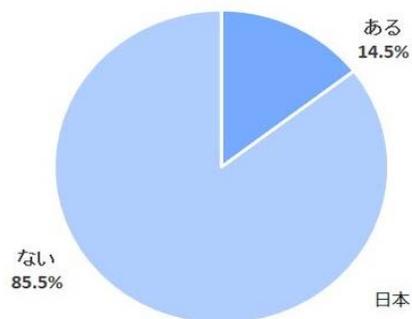
人権課題

県は「女性」「子ども」「高齢者」「障害者」「同和教育」「外国人」「感染症患者等」「新潟水俣病被害者」「北朝鮮による拉致被害者」「犯罪被害者やその家族」「刑を終えて出所した人等」「インターネットによる人権侵害」を人権課題として差別解消に取り組んでいます。しかし、これらの人権課題は今も解決されないまま、社会問題となっています。

報道でも大きく取り上げられましたが、「インターネットを使った人権侵害」です。芸能人がインターネットを使った誹謗中傷により自ら命を絶つことが報道されていました。SNSで発信した言葉・写真に対する誹謗中傷は後を絶ちません。つながるための便利な手段のはずが、命を脅かす危険な道具の一面も持っているのです。そしてそれを仕掛けているのも人なのです。

SNSやネット掲示板で他の人の悪い点の指摘、悪口や文句などの書き込みをしたことがありますか？

(n=1,252)



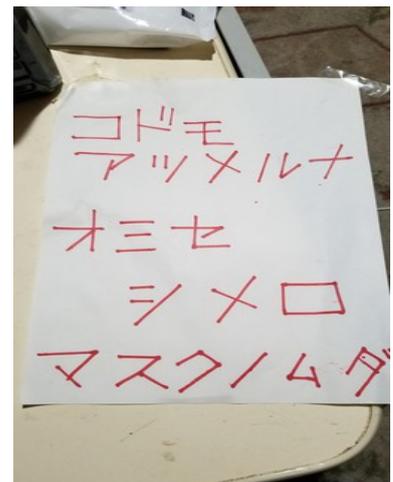
日本トレンドリサーチ調べ

連日報道されていますが、「新型コロナウイルス感染症」の猛威は、人権問題をも引き起こしています。感染者が出た家に卵を投げつけるなどの差別事象があったため、三条市長が新型コロナウイルスにかかわる偏見、差別について、メッセージを出す事態もありました。

他にも「コドモアツメルナ。オミセシメロ」。千葉県八千代市の駄菓子屋「まぼろし堂」では4月下旬、何者かが貼り紙をしました。店は3月下旬から既に休業しており、店主は「恐怖感がすごかった。今はこんなことではなく、みんなの気持ちを明るくすることを心掛けてほしい」と訴えていました。

東京都内では、自粛要請に従って時短営業をしていた居酒屋やライブバーが「この様な事態でまだ営業しますか？」「自粛してください。次発見すれば、警察を呼びます」などと貼り紙をされたケースもありました。

徳島県では県外ナンバーの車が傷を付けられたり、あおり運転をされたりする被害が相次ぎ、自衛のため「県内在住者です」と書かれたステッカーが売られる事態となりました。



千葉県八千代市の駄菓子屋「まぼろし堂」で4月下旬に見つかった貼り紙（同店提供）

人権学習の様子

他者への共感的理解を深め、「人」を、「いのち」を大切にできる子どもの育成

～自分の生き方を見つめ直すことができる人権教育、同和教育の授業実践をとおして～

二葉小学校の人権教育、同和教育は上記を研究主題として、今年度も実践を積み重ねています。1学期は3つの学級で授業公開を行い、職員も子どもたちとともに学びを深めています。

6年2組の人権学習では、新型コロナウイルス感染症による人権侵害をテーマに取り上げ、授業を行いました。(資料名「たかしさん、コロナウイルスらしいよ」:担任(池田)による自作資料)



資料の内容

登場人物「私」は、コロナウイルス感染者が発生した地域に住む親友が「コロナに感染したかもしれない」という噂を聞いた。何日か欠席した後に学校に登校してきた「たかしさん」に対して、「私」はどう接したらよいのか悩んでいた。

主な学習の流れ

① 新潟県内でも新型コロナウイルス感染症で差別されている人がいることを理解する。

- ・ひどい。・感染するのは仕方ないことなのに、おかしい。
- ・差別するのはよくない。

② 資料を読み、自分だったらどうするか考える。

- ・「大丈夫だった？」といつも通り接する。
- ・ちょっと迷う。うわさが本当かもしれないから。

③ みんなで、話し合う。

- ・うわさがあるけど、声をかけて本当かどうか聞いてみる。
- ・親友じゃなかったら、避けるかもしれない。
- ・自分も周りから差別されたらこわいから、避ける。

④ 自分をふり返り、これからの自分の生き方を見つめる。



【子どもたちの振り返り】

- ・私は、コロナはだれがかかってもおかしくないくらい流行しているのに、差別をするのはよくないと思う。でも、実際にその場にいたらと考えると悩みます。いけないことだと分かっているけど差別してしまうかもしれません。でも、それが自分だったら傷つくので、できるだけその心をストップしたいと思いました。
- ・私は、自分がたかしさんと接してコロナ扱いされるのがこわいと思いました。ひどいいじめや差別をされる人が実際にいて、辛い思いをしていることが分かりました。でも、私は少しでも迷ってしまうから、差別をしてしまっているのかなとも考えました。人を差別することはこわいと思いました。
- ・私は、コロナウイルスもこわいけれど、それよりも差別の方がこわいと思いました。みんな同じ人間だけど、コロナにかかることによって恐怖心をもってしまいます。自分だったら外に出歩けなくなると思います。差別している人は差別されている人の気持ちを分かっていると思いません。本当に差別はよくないというのを分かっているけど差別をしてしまうことがあるので、十分注意したいです。

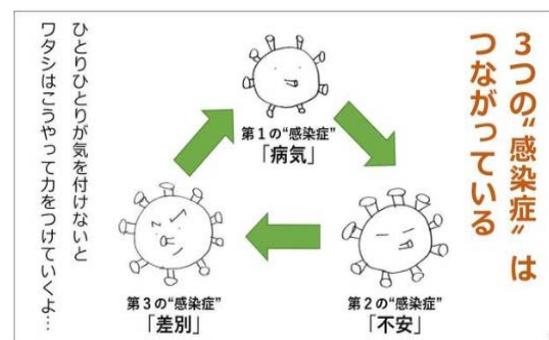
- 【6年2組 保護者 の声】(ワークシートを持ち帰り、おうちで話し合ってもらいました。)
- 誰もが感染者になってしまう状況でも、やはり身近に感染者が出てしまったら怖いと思ってしまふ。でも差別や偏見、いじめ、SNSでの誹謗中傷はあってはいけない。私たち親がちゃんとした行動をしないと子どもも同じような行動をしてしまうので、気を付けていきたいと思ひます。
 - 恐怖心から差別や嫌がらせをしてしまうように思ひます。してはいけないと分かっているつもりではありますが、実際、身近に感染者かもしれないという人がいたなら、いつも通り接することができるのか正直自信はありません。しかし、子どもと一緒にこの話を讀み、意見を聞いて、改めて考えさせられることがたくさんありました。いつ終わりがくるのか分からないですが、みんなで乗り越えられるよう頑張っていきたいです。

すべての人が安心できる社会を



見附市のイラストレーター村上徹さんが描いたあるマンガがSNS上で話題となっています。感染者がない見附市で、「安心して感染したい」という思いが込められたマンガです。マンガには感染者が確認されていない見附市で、「第1号」になることを恐れる見附市民の声が描かれています。そして、「噂するのも、村八分にするのも、後ろ指さすのも、陰口を叩くのも、ウイルスじゃない。この、『ひと』なんだよなあ」という、作者の心の声がかかれています。

日本赤十字社のHPには、第3の感染症「差別」をあげ、人々に呼びかけてい



ます。

見附市役所公式Facebook ページより

日本赤十字社HP「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」より

***** 同和教育部からのお知らせ *****

人権について考えることは人として生きるかぎり、一生をかけて考えなければいけないことだと思ひます。「仲間とともに」を讀んで下さる保護者の方々にとって、人権について考える一つの材料となれば幸いです。子どもたちも学校で学習しています。私たち大人も共に学び合ひましょう。

感想などがありましたら、担任を通じてでも結構です。お寄せいただくと励みになります。よろしくお願ひします。

(文責 渡邊 幸太)